

真実を知ってください

薬物

薬物によって、
毎年何百万もの人々の
人生が台無しにされています。
薬物について、あなたは何を
知っておくべきなのでしょうか？

エクスタシー
LSD スピード
コカイン
マリファナ

drugfreeworld.org



この小冊子が 制作された理由

街 中や学校、あるいはインターネットやテレビの中で、薬物についてのさまざまな情報が氾濫しています。その中には正しい情報もありますが、そうでないものもあります。

そうした薬物情報の多くは、売人によって広められたものです。今では更生したかつての売人は「薬物を買ってもらうためなら、どんな嘘でも言っていた」と証言しています。

そのような情報にだまされないでください。薬物乱用という罠を避けるためには、事実を知る必要があります。この小冊子はそのために制作されたものです。

この小冊子をお読みになった上で、皆様のご意見やご感想をウェブサイト **drugfreeworld.jp** から、またはEメール **info@drugfreeworld.jp** までお寄せください。

薬物に染まった文化

20世紀の中頃から、薬物が私たちの文化の一部となっています。1960年代に音楽やマスメディアを通して広まった薬物は、社会のあらゆる部分に浸透しています。

世界中で、およそ2億800万人が違法な薬物を取っていると推測されています。日本はアジアで最大の覚せい剤マーケットのひとつであり、覚せい剤の密売は暴力団の主要な資金源となっています。2番目に多く乱用されているのはマリファナ（大麻）で、エクスタシー（MDMA）がそれに続きます。

おそらく、あなたも薬物から直接、または間接的に影響を受けたことがある人を知っていることでしょう。



アメリカ合衆国で最も一般的に乱用されているのはアルコールです。アメリカでの十代の死亡事例において、アルコールによる自動車事故が2番目の主要な原因となっています。

違法薬物の中で、最も一般的に使用されているのはマリファナです。国連の「2008年 世界薬物報告」によると、世界の15歳から64歳の人口の約3.9%がマリファナを乱用しています。

最近では、薬物の使用者が低年齢化しています。2007年に疾病コントロール・センターが行ったアンケート調査によると、アメリカの高校生の45%がアルコール飲

料を飲み、19.7%がひと月の間にマリファナを喫煙していたことがわかりました。

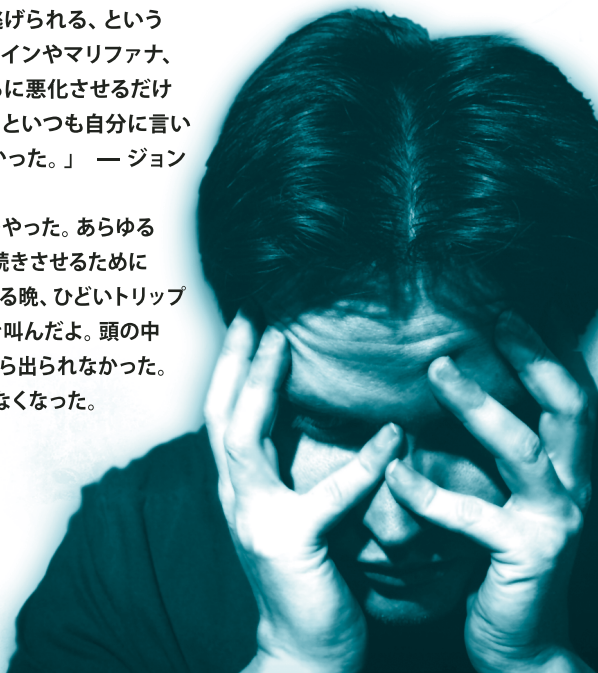
15歳と16歳の子供たちを対象にしたヨーロッパでの最近の調査によると、マリファナを使用しているのは全体の10%から40%以上で、最も高い割合を示したのはチェコ共和国の子供たちでした（44%）。その次がアイルランド（39%）、イギリス（38%）、フランス（38%）です。スペインとイギリスでは、15歳と16歳のコカインの使用率は4～6%となっています。コカインを用いる若者が増えている国は、デンマーク、イタリア、スペイン、イギリス、ノルウェー、フランスです。



「**生** 生きることじゃなく、ドラッグでハイになることが人生の目的になっていた。ドラッグがあれば問題から逃げられる、という誤った考えを持っていたので、何年もコカインやマリファナ、アルコールに走っていた。だけど、それは問題をさらに悪化させるだけだった。ドラッグをやるたびに、これで最後にしようといつも自分に言い聞かせるんだけど、どうしてもやめることができなかった。」 — ジョン

「**最** 初にマリファナ、次はエクスタシーとLSDをやった。あらゆるタイプの薬物を混ぜたり、ハイな気分を長続きさせるためにわざと大量にやったりすることもあった。ある晩、ひどいトリップになって…この最悪の気分を誰か消してくれよ、と泣き叫んだよ。頭の中で声が聞こえるし、ひどい震えがする。6ヵ月間も家から出られなかった。みんなに監視されているような気がして、人前で歩けなくなった。車の運転さえできないんだ。

拳句の果てにホームレスになった。路上で生活し、段ボール箱の中で寝て、何とか食べ物にありつくために物乞いをしていたよ。」 — ベン



なぜ人は薬物を取るのでしょうか？

人が薬物を取る理由は、自分の人生を変えたいと思うからです。

若い世代の人たちが薬物を取る理由には、以下のものがあります。

- 周りとうまくやっていきたい。
- 逃避するため。リラックスするため。
- 退屈を紛らわすため。
- 大人になったような気がするから。
- 反抗するため。
- どんなものか試してみたい。

こういった若者は、薬物が問題を解決してくれると思っているのです。しかし、結局のところ薬物は問題にはなりません。

自分の問題に直面することが困難なこともあるでしょう。しかし、薬物によって解決しようとしている問題よりも、薬物を使用した方が常に悪い結果を招きます。本当の解決策は、事実を認識し、最初から薬物など使用しないことです。

薬物はどのように 作用するのでしょうか？

薬物は基本的に毒です。その影響は、摂取する量によって決まります。

少し摂取すると、活動をより活発にする中枢神経刺激剤として作用します。多めに摂取すると、活動を抑制する鎮静剤として作用します。さらに多量に摂取すると毒となり命を奪います。

これはどの薬物にも当てはまります。こうした作用を引き起こすのに必要な量に違いがあるだけです。

それだけではなく、多くの薬物には人の心にも影響を及ぼす弊害があります。薬物を取っている人が自分の周囲で起こっていることを知覚しても、それは歪んだ

ものになってしまう可能性があります。その結果、その人の行動は奇妙だったり、不合理であったりするかもしれません。暴力的になることもあるでしょう。

薬物はすべての感覚を遮断します。望ましい感覚も望ましくない感覚もです。そのため、短期的には痛みを和らげるために役に立ちますが、同時に人の能力や機敏さを消し去り、思考を不明瞭にします。

医薬品は、身体の働きを良くしようとして、何かを速めたり、遅くしたり、身体の働きを変えることを意図した薬物です。時には必要ですが、薬物であることに変わりはありません。中枢神経刺激剤や鎮静剤といった薬物を取り過ぎれば命を落とすこともあります。したがって、医薬品は規定通りに使用されない場合、違法薬物と同様に危険なものになり得ます。

薬物が心の働きに与える影響

普通、人が何かを思い出す場合、心はとても機敏に働き、それはすぐに心に浮かんできます。しかし、薬物は記憶を曖昧にし、空白の部分を生み出します。このようにぼやけて混乱している部分から情報を得ようとしても何も得ることはできません。薬物のせいで、人は自分が鈍く、愚かになったように感じ、普段の生活で失敗を犯すようになります。そして、失敗を重ねれば重ねるほど、生きていくことがさらに辛くなり、そのために一層薬物を取りたいと思うようになってしまうのです。

薬物は創造力を破壊する

薬物に関する誤った情報のひとつに、「薬物を取ると人はより創造的になる」というものがあります。真実は全く異なっています。

悲しんでいる人が薬物を取ることで、幸福感を味わえるだろう、と期待するかもしれませんが、薬物はそのようには作用しません。薬物を取ると、人は自分が陽気になったように感じますが、効き目が切れると、その人の気分は以前よりも一層落ち込みます。そして、薬物を取るたびにその後の気分的な落ち込みはさらにひどくなっていきます。最終的に、薬物によってその人の創造力は完全に破壊されてしまいます。



「ドラッグをやっていた頃、自分は人生をコントロールしていて、うまくやっているとっていた。

でも、自分が築き上げ、勝ち取ってきたものをすべて台無しにしてしまっただけだった。ドラッグをやらない友人と付き合いなくなり、家族との縁も切れた。周りにはドラッグをやっている仲間しかいなかった。毎日、ドラッグを手に入れる金をどうやって手に入れるか、ということしか頭になかった。覚せい剤を手に入れるためなら何でもやった。それが生きることのすべてだった。」

— パット

「お酒を飲むと楽しい気分になれたわ。飲むようになってからすぐにマリファナを教えられ…その後、友達の家でマリファナを吸ってた時に、誰かがコカインの入った袋を出したの。すぐにコカインをやるのが毎日の習慣になってしまったわ。アルコールやコカイン、マリファナやLSDを買い続けるために、ほとんど毎日のように親の会社や祖父母の所からお金を盗んでいたわ。

それから鎮痛剤のオキシコンチンを教えられて、常用するようになったの。気が付くと、オキシコンチンを吸引することも毎日の習慣になっていたわ。もっと強いやつが欲しくて、ヘロインにも手を出したわ。ハイになるためなら何でもやったわ。中毒には逆らえなかったの。

止めようとするたびに体が強烈にドラッグを欲しがると。どうしてもそれに耐えられず、結局またやってしまうの。」

— エディス

よく乱用されている 薬物についての 基本的なデータ

下記に示されている、一般によく乱用される薬物に関するデータは、この小冊子の巻末に掲載されている参照文献から編集されたものです。このデータによって、以下の薬物がどんなもので、どのような作用があるのかについて正しい知識が得られます。

※ マリファナ	12ページ
※ アルコール	14ページ
※ エクスタシー	16ページ
※ コカイン & クラック・コカイン	18ページ
※ 覚せい剤 & 結晶状覚せい剤	20ページ
※ 有機溶剤・吸入ガス	22ページ
※ ヘロイン	24ページ
※ LSD	26ページ
※ 処方薬乱用	28ページ

マリファナ

マリファナは、たいていタバコのようにペーパーに巻かれており、それはジョイントと呼ばれています。またお茶にしたり、食べ物に混ぜたり、 bong と呼ばれる水パイプで喫煙する場合もあります。

アメリカ合衆国では、薬物リハビリ施設に入る人のうち、カンナビス*（大麻類）乱用者の割合は3番目に多く、16%に上ります。「薬物乱用に関する全国世帯調査」に

通称:

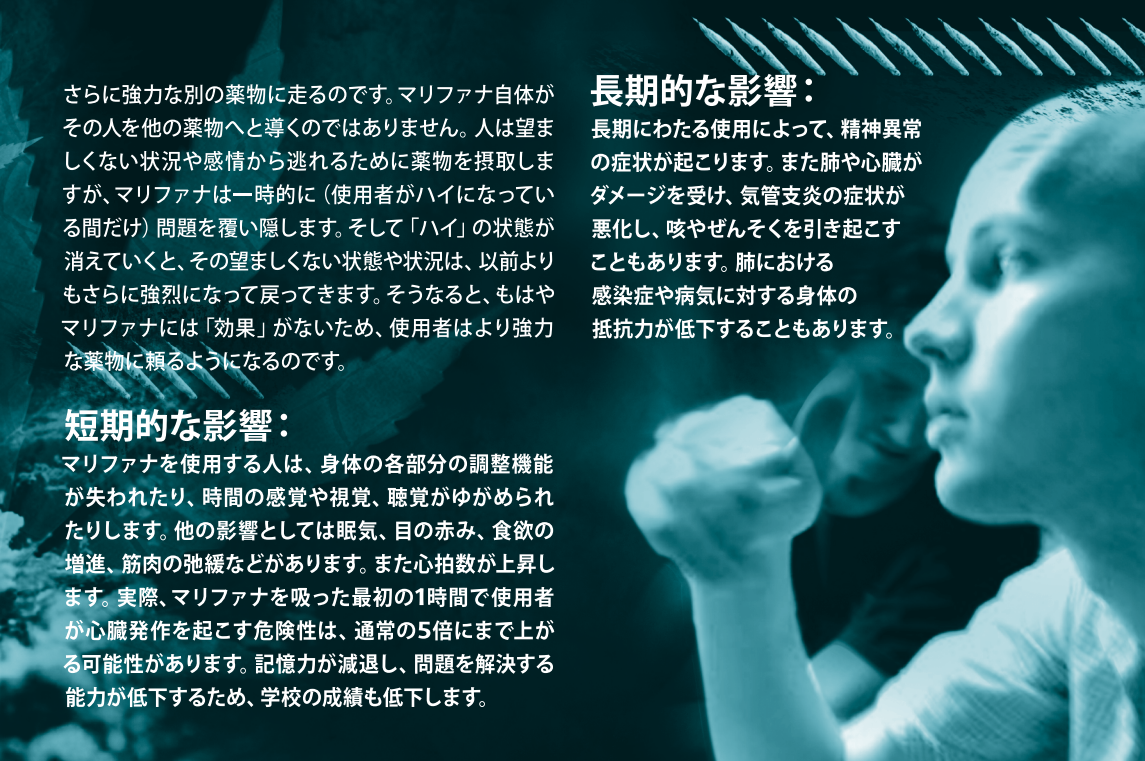
- | | | |
|---------|-----------|---------|
| ● 草(くさ) | ● リーフ | ● クロニック |
| ● ハッパ | ● スモーク | ● ガンジャ |
| ● プラント | ● ウィード | ● スーパー |
| ● グラス | ● メリージェーン | ● スカンク |
| ● ハーブ | ● スカンク | ● パープル |
| ● ポット | ● ブーム | ● ヘイズ |
| | ● キフ | ● ドーブ |

よると、頻繁にマリファナを使用している子供たちが暴力的な行動を取ったり物を壊したりする割合は、そうでない子供のほぼ4倍になっています。このような子供が盗難を働く割合は、薬物を使用しない子供の5倍です。

多くの場合、現在のマリファナは昔よりもさらに作用が強力になっています。製造方法が進歩したことと、使用する材料を厳選することによって、さらに強力な薬物が製造されるようになったのです。その結果、若いマリファナ常用者がマリファナ絡みの事故で緊急治療室に運び込まれる件数も明らかに増えています。

薬物に対する耐性が増していくため、マリファナを使用する人は、以前と同じ「ハイ」の状態を得るために、より強力な薬物を摂取するようになります。マリファナの作用が薄れ始めると、その人は最初にマリファナを取るきっかけになった望ましくない状態から逃れるために、

* カンナビス:マリファナやハシッシュなど、インドタイマからつくられるさまざまな薬物の総称。



さらに強力な別の薬物に走るのです。マリファナ自体がその人を他の薬物へと導くものではありません。人は望ましくない状況や感情から逃れるために薬物を摂取しますが、マリファナは一時的に（使用者がハイになっている間だけ）問題を覆い隠します。そして「ハイ」の状態が消えていくと、その望ましくない状態や状況は、以前よりもさらに強烈になって戻ってきます。そうすると、もはやマリファナには「効果」がないため、使用者はより強力な薬物に頼るようになるのです。

短期的な影響：

マリファナを使用する人は、身体の各部分の調整機能が失われたり、時間の感覚や視覚、聴覚がゆがめられたりします。他の影響としては眠気、目の赤み、食欲の増進、筋肉の弛緩などがあります。また心拍数が上昇します。実際、マリファナを吸った最初の1時間で使用者が心臓発作を起こす危険性は、通常の5倍にまで上がる可能性があります。記憶力が減退し、問題を解決する能力が低下するため、学校の成績も低下します。

長期的な影響：

長期にわたる使用によって、精神異常の症状が起こります。また肺や心臓がダメージを受け、気管支炎の症状が悪化し、咳やぜんそくを引き起こすこともあります。肺における感染症や病気に対する身体の抵抗力が低下することもあります。

アルコール



通称:

- ブーズ
- ソース
- ブリュー
- ブリュースキ
- フーチ
- ハードスタッフ
- ジュース

アルコールは中枢神経系*の働きを弱め、自制心を低下させ、また判断力を鈍らせます。大量の飲酒は昏睡状態、また場合によっては死につながることもさえます。アルコールに医薬品やストリート・ドラッグを混ぜることは非常に危険な行為で、命に関わる場合もあります。脳がアルコールの影響を受けると、筋肉の調整機能が失われる、反射能力が鈍くなる、視覚がゆがむ、記憶が途切れる、気を失う、といった現象が起こることがあります。十代の若者の身体は成長の過程にあり、そのためアルコールが若者の健康や心の健全さに与える影響は、大人よりもずっと大きいものとなるのです。

短期的な影響:

温まる感じ、肌が赤くなる、判断力が鈍る、筋肉の調整機能が失われる、不明瞭な発音、記憶力や理解力が失われる。大量に飲酒すると、通常は「二日酔い」や吐き気、不安、脱力感、震えを経験し、時には嘔吐することもあります。

長期的な影響：

アルコールは、その不快な作用の多くに対して許容度が高まることから、飲酒の量が増えていきます。これは、肝臓障害などの状態の悪化につながり、また心臓病の危険性が増します。妊娠中の女性は、心臓や脳、その他の主要な身体器官に障害を持った子供を産むかもしれません。また、アルコールに依存するようになる場合もあります。急に飲酒を止めると、禁断症状が起こることがあります。その症状は、不安から不眠、発汗、食欲不振、けいれんなどに及び、時には死に至ることもあります。またアルコールの乱用は、人間関係における暴力や争いを引き起こす可能性もあります。

* 中枢神経系：脳や脊髄など、知覚・運動などの機能を制御したり調節したりする神経の総称。



エクスタシー

通称：

- E
- バツ
- XTC
- X
- アダム
- ハグ
- ビーンズ
- タマ
- ラブドラッグ

エクスタシー (MDMA) は通常、錠剤やカプセルの形で取られる薬物です。同時にふたつ以上摂取することを「バンピング」と呼びます。

エクスタシーは実験室で人工的に作られた合成の薬物です。製造者はカフェイン、アンフェタミン*、コカインなどの薬物を選んで、この薬物に加えることがあります。エクスタシーは違法であり、幻覚剤や覚せい剤と同様に作用します。錠剤はさまざまな色をしており、時にはマンガのような絵柄が描かれています。エクスタシーにアルコールを混ぜると非常に危険で、命に関わることがあります。

エクスタシーのような薬物には興奮剤の作用があり、使用すると長時間踊り続けることができます。レイブ・パーティーなどでは、混雑した室内の暑さが加わることで、極度の脱水症状や心不全、あるいは腎不全を引き起こすことがあります。



短期的な影響：

- 判断力の低下
- 偽りの愛情感覚
- 混乱
- 抑うつ
- 睡眠障害
- 激しい不安
- 偏執症[†]
- 薬物への渴望
- 筋肉の緊張
- 無意識に歯を食いしぼる
- 吐き気
- 目のかすみ
- もうろう感
- 悪寒や発汗



長期的な影響：

- 長期間にわたって使用すると、脳がダメージを受け、判断力や思考力に悪影響を及ぼします。場合によっては、脳に回復不能なダメージを与えます。

* アンフェタミン：中枢神経刺激剤。「スピード」と呼ばれることが多い。

† 偏執症：他人に対して根拠のない疑い、不信任、恐れを抱く状態のこと。

「エクスタシーのせいで頭がおかしくなった。ある日、リンゴをかじるような感じでガラスのコップにかじりついたことがあった。口の中がガラスの破片で一杯になった時、やっと自分が何をしているのかに気付いた。1時間もぼろきれを噛みちぎっていたこともあった。」

— アン



コカイン& クラック・コカイン

コカインとクラック・コカインは、口から飲む（経口摂取）、鼻から吸い込む（吸引）、静脈に注射するといった方法で摂取されます。クラック・コカインの場合は、薬物を熱することで揮発する蒸気を吸引することもあります。

この薬物の取り方を表現する言葉としては、噛む、吸い込む、打つ（静脈注射）、喫煙するといったものがあります。

コカインという言葉は、粉末状のもの（コカイン）と結晶状のもの（クラック）を指します。コカインはコカという植物から

通称：

- コーク
- クラック
- フレーク
- 粉
- 嗅ぐやつ
- スノー
- スニフ

作られます。あらゆる薬物の中で、この薬物による心理的な依存度は、メタンフェタミン*の次に強力なものになります。



短期的な影響：

コカインは強烈な「ハイ」の状態を短時間引き起こしますが、それらはすぐにひどい憂うつ感、神経過敏、そして薬物への渴望といった状態に変わります。この薬物を頻繁に使用する人たちは、食事や睡眠をきちんと取りません。また心拍数が急激に上昇したり、筋肉のひきつりやけいれんを起こしたりします。この薬物を使用している人たちは、「ハイ」でない時でさえ、偏執的になったり、怒りや敵意、不安などを感じたりします。

* メタンフェタミン：覚せい剤の化学名。非常に中毒性の高い中枢神経刺激剤。



長期的な影響：

すでに述べられたものに加え、コカインは神経過敏、情緒不安定、不安感、妄想や幻聴を引き起こします。薬物への耐性ができるため、同じ「ハイ」の状態を得るためにさらに多くの分量を必要とするようになります。

この薬物は効き目が切れると、ひどい憂うつ感に陥ります。この憂うつ感を取るたびにひどくなっていきます。これは、薬物を手に入れるためにはどんなことでも — 殺人をも犯しかねないというほど深刻になることさえあります。コカイン中毒者は、コカインを入手できないことによる憂うつ感が高じると、自殺を試みることがあります。

覚せい剤 & 結晶状覚せい剤

覚せい剤および結晶状覚せい剤は、吸引や喫煙、あるいは注射によって摂取されます。また錠剤の形で摂取されることもあります。

結晶状覚せい剤は覚せい剤の一種で、小さなガラスの破片や、青白い光沢のある石のように見えます。町中では「ロック」「がんころ」「アイス」といった名前でも知られています。この薬物は非常に作用が強く中毒性の高い人工の興奮剤で、攻撃的、暴力的、あるいは精神異常的な行動を引き起こします。この薬物を使用している人の多くは、初めて使用した時から「ヤク中」（薬物中毒になる、常習癖が付く）になったと報告しています。これは、中毒の治療が最も困難な薬物のひとつです。

通称：

- スピード
- S (エス)
- 冷たいの
- 速いの
- シャブ
- がんころ
- アイス
- グラス
- メス
- クリスタル

短期的な影響：

この薬物の使用による悪影響には、睡眠パターンが崩れる、多動（ハイパーアクティブ）、吐き気、誇大妄想、神経過敏などがあります。空腹感を感じなくなるため、体重が減ります。より多くの量を摂取すればさらに強い「快感」が得られますが、その後は気分の動揺が激しくなり、さらに暴力的になることもあります。他の影響としては、不眠、混乱、幻覚、不安、偏執症などがあります。ひきつけを起こし、死に至る場合もあります。

長期的な影響：

心拍数や血圧が高くなり、脳の血管が傷つくため、脳卒中、あるいは不整脈や心臓血管系の破壊につながり、死に至ることがあります。また肝臓、腎臓、そして肺の損傷を引き起こすことがあります。脳が損傷を受けるため、記憶力が低下したり、抽象的な考えを把握できない傾向が強くなっていく場合があります。回復した場合でも、記憶に空白ができた、極端な躁うつになったりするものが通例です。

「いろんなドラッグがある中で、俺が気に入ったのは覚せい剤だった。安いし、簡単に手に入るし、すぐにハマれて使い方も簡単だったからね。1回試したらあっという間にハマってしまった。ジャンキーになったことで一番悪影響があったのは、ミュージシャンとしてのキャリアが台無しになったことだね。俺には素晴らしいバンドがいて、最高の音楽をやっていた。メンバーも最高の連中で、ただのバンドのメンバーじゃなくて、みんなが親友でもあったんだよ。でも、俺が覚せい剤をやるようになったせいで、すべてが変わってしまった。」 — ブラッド



有機溶剤・ 吸入ガス

通称：

- アンパン
- 純トロ
- ホイペット
- ラッシュ

有機溶剤と吸入ガスは、エアゾールスプレー、洗浄液、接着剤、塗料、塗料用シンナー、マニキュアの除光液、亜硝酸アミル*、ライターのガスといった家庭用品に見られる化学物質です。鼻から吸い込むか、袋に入れて吸引するなどして摂取されます。

有機溶剤と吸入ガスは脳に悪影響を及ぼします。これらに含まれる揮発性の物質を鼻や口から吸い込むと、身体や心に一生残るダメージを受けることがあります。こうした化学物質は体内の酸素の量を低下させる

ため、心臓の鼓動が不規則になり、速くなり

ます。有機溶剤や吸入ガスを乱用する人たちは嗅覚が失われ、吐き気や鼻血に悩まされたり、肝臓、肺、腎臓などに問題が起こったりします。常習的に使用すると、筋肉量が落ち、筋肉の張りがなくなり、さらに筋力も低下します。有機溶剤や吸入ガスを乱用する人は、普通に歩いたり、話したり、

考えたりすることができなくなります。この有毒な気体を鼻から直接副鼻腔[†]に吸い込むと、脳細胞が大きなダメージを受けます。

短期的な影響：

上記の影響に加え、吸引された揮発性の化学物質によって肺や中枢神経系が酸素を奪われるため、心臓発作、あるいは窒息を起こし、死に至ることがあります。有機溶剤や吸入ガスを取っている人は、突然極端に暴力的な反応を示すこともあります。

長期的な影響：

筋肉が衰弱し、筋肉の正常な張りや力が減少します。身体と脳に一生残るダメージを受けることもあります。

* 亜硝酸アミル：血管拡張剤として用いられる薄い黄色の液体。中枢神経刺激剤として乱用されることもある。

† 副鼻腔：頭蓋骨の前面、鼻腔の周辺にある4つの穴のこと。



ヘロイン

ヘロインは通常、注射や吸引、あるいは喫煙によって使用されます。ヘロインは非常に常習性が高い薬物です。ヘロインは脳にすばやく取り込まれ、使用する人の思考や反応を鈍らせ、判断力を低下させます。この薬物を使用する人は、過去の出来事を思い出すことが困難になります。

通称：

- ホース
- スマック
- H（エッチ）
- スキャッグ
- ジャンク
- ブラウン
- シュガー

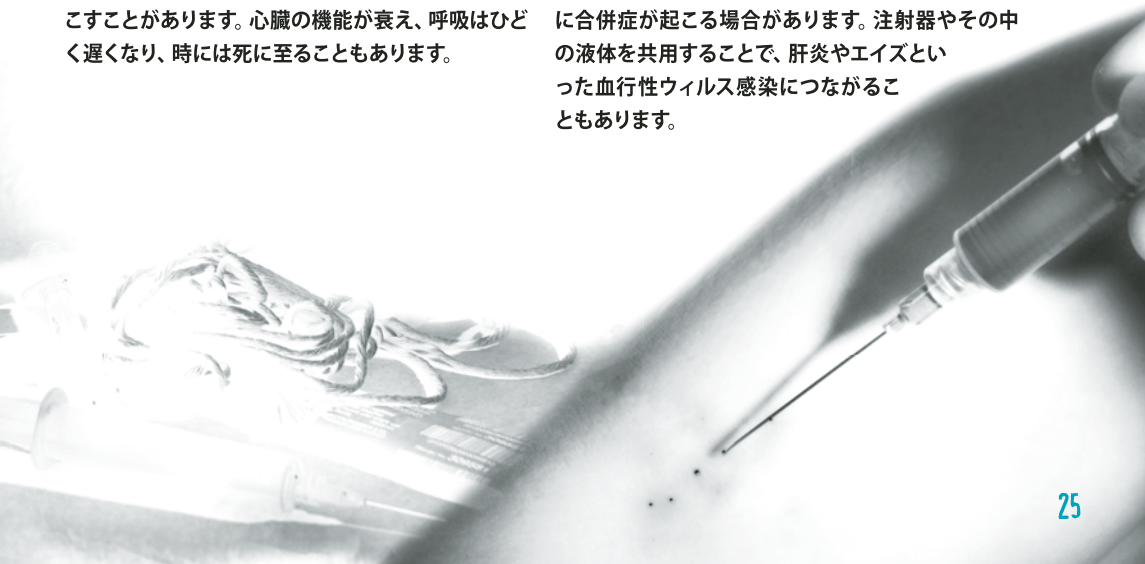
ヘロインを注射によって用いると、感染した針によってエイズ、肝炎その他の病気に感染する危険性があります。こうした健康上の問題は、性交渉の相手や新生児に移行する場合があります。薬物乱用による死亡事故で、ヘロインは関与している件数が最も多い薬物のひとつになります。この薬物の使用はしばしば暴力や犯罪を誘発します。

短期的な影響：

この薬物を乱用する人は、もうろうとした気分、吐き気、嘔吐などを経験します。痛みの感覚が抑制される場合もあります。妊娠中の女性は、自然流産を起こすことがあります。心臓の機能が衰え、呼吸はひどく遅くなり、時には死に至ることもあります。

長期的な影響：

長期的な影響には静脈の損傷あるいは破壊、血管の細菌感染、心臓弁膜症、腫瘍や他の軟らかい組織の感染症、そして肝臓病や腎臓病があります。また肺に合併症が起こる場合があります。注射器やその中の液体を共用することで、肝炎やエイズといった血行性ウィルス感染につながることもあります。



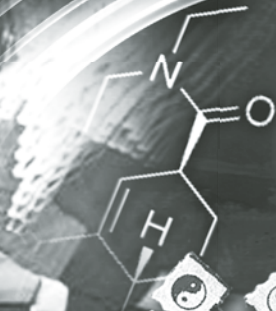
LSD

通称:

- エル
- 紙 (かみ)
- アシッド
- シッド
- プロッター
- ヘブンリーブルー
- マイクロドット
- タブ
- ドット

LSD は錠剤、カプセルまたは液体状で売られています。この薬物を吸水性のある紙に吸収させ、模様の付いた小さな四角い紙片に分けたものが一般的です。この紙片一枚が1回分です。

LSDは最も強力な幻覚剤のひとつであり、ライ麦やその他の穀物に寄生するきわめて毒性の強い菌から作られます。その影響は予測し得ません。LSDはごく少量でも12時間以上続く作用を引き起こすことがあります。



短期的な影響：



瞳孔拡大、体温の上昇、心拍数と血圧の上昇、発汗、食欲不振、不眠、口内の乾燥、震え。LSDの使用中には、苦痛と恐れに満ちた考えや気分、自制心を失うのではないかとという恐怖、狂気と死への恐れ、絶望感を経験することがあります。



長期的な影響：

「フラッシュバック」、つまりLSDを摂取してからかなり長い時間が経過し、薬物の効き目が切れているように思えるにもかかわらず、「トリップ」と呼ばれるLSDの幻覚症状が再現される現象があります。通常LSDによる「トリップ」は約12時間後に消え始めますが、中にはその後も長期間にわたって精神異常の症状を示す使用者もいます。

処方薬乱用

処方薬の乱用は、多くのストリート・ドラッグよりも深刻な問題になってきています。鎮痛剤、鎮静剤、安定剤、抗不安薬、中枢神経刺激剤、抗うつ剤といった医薬品は、医師が処方するため「安全」であるように見えるかもしれませんが、実際にはその常習性や作用の強力さは、ヘロインやコカインといったストリート・ドラッグと変わらないと言えるほどです。例えばオキシ

コンチンという鎮痛剤は、ヘロインと同じくらい強力です、身体への影響の仕方も同じです。鎮痛剤、鎮静剤（「ダウナー」）、中枢神経刺激剤（「アップパー」）、抗不安薬などを使用し続けると依存症になる可能性があり、使用を止めようとするとき非常に強い禁断症状に苦しむことになります。

以下にこうした薬物が引き起こす影響の例を挙げます。



鎮痛剤：鎮痛剤の種類は非常に多く、オキシコンチン、フェンタニール、モルヒネ、ペルコダン、デメロールなどが代表的なものです。引き起こされる作用には、呼吸の低下、吐き気、意識の喪失などがあります。乱用すると依存症になる可能性があります。

鎮静剤・安定剤：ザナックス、ジプレキサ、アミタール、セコナール、ベイリウムなどがあります。こうした薬物は脳や神経系の働きを鈍らせます。心臓の障害、体重の減少、倦怠感*、ろれつが回らなくなるといった作用が起こる可能性があります。使用し続けると依存症になる可能性があります。

中枢神経刺激剤：覚せい剤やコカインと似た作用があり、心拍数が上昇したり呼吸が速まったりします。このタイプの薬品には、リタリン、アデロール、コンサータ、ベンゼドリンなどがあります。作用としては、血圧や心拍数の上昇、攻撃性や被害妄想が生じるといったものがあります。

抗うつ剤：プロザック、パキシル、ゾロフト、セレксаなどが一般によく使用されている抗うつ剤です。慢性的に使用すると、心臓の鼓動が不規則になる、被害妄想、暴力衝動や自殺衝動、幻覚などの作用が起こることがあります。長期間使用すると依存症になる可能性があります。

アメリカにおける鎮痛剤や鎮静剤、抗うつ剤の過剰摂取（オーバードーズ）による死亡事故は、コカイン、ヘロイン、覚せい剤による死亡をすべて合わせた数字よりも多くなっています。

* 倦怠感：身体的・心理的な疲労感やだるさ。

薬物の売人が よく使う誘い文句

十代の若者へのアンケートによると、薬物に手を出すようになったそもそもの理由として、55%が「周りの雰囲気流された」と回答しています。彼らには「ダサイ」と思われたくない、カッコよく見られたい、という願望があります。薬物の売人はそのことをよく承知しています。

売人たちは、友達のような顔をして近付き、親切を装って「いい気分になれるもの」を教えてあげると持ちかけてきます。その薬物を使うと「周囲から浮いてると思われるなくなる」とか「仲間の中で目立てる」というのです。薬物の売人はお金だけが目当てです。薬物を買っても

らうためなら、どんな嘘でも言います。

例えば「コカインをやると毎日パーティー気分でいられる」「ヘロインをやるとすごく癒される」「エクスタシーをやっていると女がいくらでも寄ってくる」などと言ってくるでしょう。

売人は「お客さん」が払うお金にしか関心がありません。薬物のせいでその人の人生が台無しになっても気にしません。かつての売人たちは、薬物を買う人を「いいカモ」としか見ていなかったと証言しています。

薬物についての真実を知ってください。そうすれば自身で正しく判断できるはずです。

この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズは、これまでに22の言語で出版され、世界中で何百万部も配布されてきました。新しいドラッグが次々と世の中に出回っており、その影響に関する新たな情報が知られるようになっていきます。本シリーズはそうした新しい情報を盛り込んだ最新版です。

これらの小冊子シリーズは、アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルスを拠点とする非営利の公益法

人「薬物のない世界のための財団」によって出版されています。

財団では、その国際防止ネットワークを通して各種教育資料や助言を提供したり、調整を行ったりしています。また、青少年や保護者、教育者やボランティア団体、政府機関ばかりではなく、薬物乱用のない人生を送ることに関心のある人なら誰とでも協力しています。

参考文献

European Monitoring Centre
for Drugs and Drug Addiction,
2007 Annual Report

“Drug Facts, Did You Know?”
Drugs and the Environment,
October 2004

“Results from the 2007 National
Survey on Drug Use and Health:
Fact Sheet.”

AlcoholScreening.org

Office of National Drug Control
Policy

“New Initiative Harnesses Power
of Teens, Parents to Stop Teen
Drug Use,” Media Campaign,
News Room, 29 January 2004

Office of National Drug Control
Policy, National Youth Anti-Drug
Media Campaign, 3 October
2004

“Help for Parents: Is Your Child
Using Drugs? How to Find Out,”
Partnership for a Drug-Free

America, 12 October 2004

Substance Abuse and Mental
Health Services Administrations,
U.S. Department of Health and
Human Services

UN Office of Drugs and Crime
World Drug Report 2008

European Monitoring Centre
for Drugs and Drug Addiction
Statistical Bulletin 2008

“Treatment Episode Data Set
(TEDS) Highlights—2006”

“CDC Survey: As Many Teens
Smoke Marijuana as Cigarettes,
Cigarette Use Dropping Faster,”
5 June 2008

2009 International Narcotics
Control Strategy Report, 27
Feb 2009

写真:

8ページ: Alamy (左); 15ページ:
istockphoto.com/Lisa Young;
26ページ: Luke Peters.

真実を知ってください：薬物

この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズには、マリファナ、アルコール乱用、エクスタシー、コカイン、クラック・コカイン、覚せい剤、有機溶剤・吸入ガス、ヘロイン、LSD、処方薬乱用についての正確な情報がまとめられており、読者が自分の意志で薬物のない人生を送ることができるように役立つ内容になっています。

さらに情報を知りたい方、またはこの小冊子シリーズのいずれかをさらに
何部かご希望の方は、下記までご連絡ください。



Foundation for a Drug-Free World
1626 N. Wilcox Avenue, #1297
Los Angeles, CA 90028 USA
drugfreeworld.org
info@drugfreeworld.org
+1-818-952-5260

薬物のない世界のための財団
日本支部
〒170-0001 東京都豊島区
西巣鴨1-17-5
パークホームズ西巣鴨308
TEL：03-5394-0284
Eメール：info@drugfreeworld.jp
drugfreeworld.jp